

越谷市消防本部

Koshigaya City Fire Department

50周年記念誌



50th
ANNIVERSARY

越谷市消防本部 50周年記念誌



越谷市消防本部 50周年記念誌

INDEX

ごあいさつ	越谷市長	板川 文夫
記念誌発刊によせて	越谷市議会議長	野口 佳司
常備消防発足50周年を迎えて	越谷市消防長	大野 實
越谷市消防50周年記念にあたり	越谷市消防団長	深野 弘

第1章 越谷市消防本部50年のあゆみ

越谷消防の始まり	2
1959 [昭和34年]～	3

第2章 災害に強いまちづくり

警防編	46
救急編	50
救助編	58
予防編	64
通信指令編	68
消防団編	72

第3章 消防施設・消防車両

消防庁舎編	76
消防車両編	80

第4章 データから見た消防

人口の推移	86
年別火災件数の推移	86
年別救急件数の推移	87
年別救助件数の推移	87
消防職員数の推移	88
消防団員数の推移	88
消防機構図	89
消防署所配置図	90
歴代消防長	91
歴代消防団長	91
消防協力関係団体	
越谷市防火安全協会 歴代会長	91
越谷市婦人防火クラブ連絡協議会 歴代会長	91
越谷市幼年消防クラブ連絡協議会 歴代会長	91
過去の災害のあらまし	92
越谷市の概要	95

ごあいさつ

越谷市長 板川 文夫



このたび、越谷市消防本部・消防署が開設50周年という大きな節目の年を迎えました。これまで越谷市の消防行政の発展のためにご尽力を賜りました関係各位に衷心より感謝を申し上げます。

越谷市消防本部・消防署は、昭和34年10月に消防車1台、職員13名をもって発足しました。以来、半世紀を経て1消防本部・1署5分署、職員298名を有する県内でも有数の規模・組織力を誇る消防本部に発展してまいりました。

また、「自らの地域は自ら守る」という理念のもと組織された越谷市消防団も、現在11分団42部、団員数413名を有する団体として、地域の防火・防災活動に多大なご活躍をいただいております。

しかし、近年の社会情勢や気候の変化等により、火災や事故、自然災害の様相は複雑多岐にわたっており、これらの災害から、市民の生命、身体及び財産を守るためには、防災力の一層の向上が不可欠であります。

こうした中、本市では、複雑化・多様化する各種災害や増加する救急需要から市民生活の安全・安心を確保するため、危機管理対策の推進や消防力の一層の強化等に鋭意努めているところです。

今後とも、本市は、越谷市総合振興計画に基づき、越谷市消防本部・消防署、越谷市消防団のさらなる強化・充実に努めるとともに、市民の皆様との協働により、誰もが安全で安心して暮らすことのできるまちづくりに全力を傾注してまいります。

このたび、先人の築きあげてきたこれまでの歩みを中心に記念誌を発行いたしました。この開設50周年を契機として、市民の皆様が、ふるさと越谷の防災に対する理解を一層深めていただきますことを、ご祈念申し上げます、あいさつとさせていただきます。

記念誌発刊によせて

越谷市議会議長 野口 佳司



このたび、越谷市消防本部・消防署発足50周年にあたり、記念誌が発刊されますことに、心からお祝いを申し上げます。

越谷市の消防行政は、消防本部の下に消防署と5カ所の分署、並びに市内各地域に設置されている消防団によって構成されており、32万市民の生命、身体及び財産を火災や地震等の災害から保護するとともに、これらの災害による被害を最小限にとどめるため、職員と団員の方々が日夜任務に精励されております。また、越谷市防火安全協会をはじめ、幼年消防クラブや婦人防火クラブなどの皆様方が、日頃から火災予防活動等に熱心に取り組まれておられますことに感謝を申し上げます。このことは、市民生活に大きな安心感をもたらしています。

顧みますと、昭和34年10月に消防本部・消防署が発足して今年で半世紀になりますが、この間、消防署所の整備や消防車両等の更新、資器材の充実など消防力の強化が図られ、近代消防としての体制が著しく整備されてきました。発足以来熱意をもって消防活動にご尽力されてこられた方々に対し、心から敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

近年、社会情勢の変化に伴い、火災や事故等の災害事象は複雑多様化しており、さらに大規模地震等の自然災害への対応など、消防機関の果たす役割は、ますます重要になっております。どうか、50年にわたる歲月の中で培ってきた経験と技術力を発揮していただき、引き続き市民の安全・安心の確保に取り組まれることを切望いたします。

結びにあたり、50周年を契機に、越谷市消防本部がさらなる発展を遂げられますよう祈念いたしまして、発刊によせる言葉といたします。

常備消防発足50周年を迎えて

越谷市消防長 大野 實



このたび、越谷市の消防本部・消防署が開設されて50周年の節目を迎えました。この間、市当局はじめ市議会、消防関係皆さまの深いご理解とご協力により、32万市民の防火防災の要となる常備消防にと充実発展してまいりました。多くの関係皆さまのご苦勞やご努力に改めて深く敬意と感謝を申し上げます。

「消防の一切の責任は市町村長にある」として自治体消防制度が発足し、越谷市の消防本部・消防署は、市制施行後の翌年昭和34年10月1日に、職員13名、速消車1台をもってスタートいたしました。今では人口32万人を超え、1署5分署、消防職員298名、消防団1本部11分団42部で団員413名、消防ポンプ自動車、化学車、はしご車、高規格救急自動車などの車両が87台（消防署48台・消防団39台）、消火栓や防火水槽など消防水利6,100箇所などの現有勢力をもって、市民の生命・身体及び財産を火災や地震などの自然災害から保護する責務を担って日々活動しております。もちろん、常日頃より地域の防火・防災にご尽力いただいている越谷市消防団、消防音楽隊の誕生をはじめ予防広報にご支援いただいている越谷市防火安全協会、地域での地密な活動をされている婦人防火クラブ、幼年消防クラブの皆様など、市民の多くのご支援・ご協力をいただきながら、安全・安心なまちづくりが着実に進展してまいりました。発足時からの消防力を振り返ると隔世の感がいたしますが、今日の消防を取り巻く環境は、多種多様、複雑・高度化へと変化して、幅広い役割が期待されております。私どもも、この50年を礎に、新たな決意とさらにの努力をしながら、市民の安全・安心の確保に全力を傾注してまいりますことをお誓い申し上げたいと存じます。

なお、今回発行の記念誌は、50年の消防の変遷が一目で解るようにと、職員皆で考え発刊させていただきました。今後の越谷市消防に対するご理解にお役に立てれば幸いです。

越谷市消防50周年記念にあたり

越谷市消防団長 深野 弘



50周年の節目にあたり、先人の消防関係皆様方に心より敬意と感謝を申し上げます。

昭和34年に越谷市消防本部・消防署が発足以来、消防団活動も市の組織として50年が経過しました。本署を中心に5カ所の分署が設けられ、火災、救急そして災害における救助、救命等の防災体制も整えられてきました。現在、全国約89万人の消防団員、その内17,800名が女性団員、埼玉県では14,200名、内女性団員337名、そして越谷市は413名、内女性団員21名がいます。消防署がない時代には全国で200万人の団員がいたそうです。今、全国で2,336の消防団があり、各

地域によって団活動は大きく異なりますが、その内の70%はまだまだ火災時の消火活動が重要視される団であると言われ、残りの30%は越谷市もその中に入りますが、よほどの大火災以外は後方支援の活動を行っています。即ち、大都市や人口の多い市においては、消防署が確立していて、常に緊急出動の体制が整っているからです。

それでは、我々消防団は何をすべきか、現状を見つめると、これからは伝統ある団活動を継承しながら、火災はもちろん、大災害に向けての訓練を行い、地域の人々に火災防止や大規模災害時における情報収集、広報活動等を行い、火災や防災に対する意識の高揚を図っていき、一人暮らしの人や寝たきりの方を越谷市消防団11分団の中で、各自治会の方々と話し合い、把握し、火災や災害時に、いち早く避難誘導し、安全な救助態勢が取れるようにしたいと思っております。

現在、我が女性団員は平成17年に入団してから5年目になりますが、防火予防の活動や消防音楽隊に参加し、各所にて演奏会を通して防災に対しての広報活動を行っています。また、救命講習会、応急手当、AEDの使用方法を地域に出向いて指導するなど消防団として地域に密着した活動を行っています。特に今年は、10月22日に横浜市の日本消防協会中央消防訓練場で開催された「第19回全国女性消防操法大会」に埼玉県代表として出場し、全国第4位「優秀賞」を獲得しました。

越谷市消防団は、与えられた資器材を有効に活用し、団員としての規律と技を磨き、今何が必要か、何を行うべきかをしっかりと見極め、将来に向けて誠心誠意努力をし、地域の防災リーダーとしての役務を果たす覚悟であります。

皆様方には、今後ともより一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

第 1 章

越谷市消防本部50年のあゆみ





越谷消防の始まり

今から135年前の明治7年（1874）、当時の越ヶ谷町では396戸が焼失する大火がありました。被害にあった戸数は町の約54パーセントに当たるものでした。この火災は隣接する瓦曾根村にも被害が及び80戸が焼失しました。しかし、明治初期には、「消防は自警的なもの」の風習が強く、これといった消防組織もなく人々は手桶などで消火に努めるという程度でした。

明治19年（1886）12月、埼玉県は「消防組編成規則」を定めて1町村1組合の消防組織編成を奨励しました。この規則により、越ヶ谷・桜井・蒲生・出羽・増林・荻島・新方・川柳の各地区に近代消防組織が誕生しました。これが、“越谷の消防”の始まりです。

また、明治27年（1894）には政府から「消防組規則」が公布されました。この規則の目的は、消防行政の全国統一化と私設消防の廃止にありました。これにより町村条令によって設置されていた消防組は公設消防組に切り替えられました。また、消防組の指揮監督は県知事にありましたが、実際には警察署長が任務にあたっていました。

昭和14年（1939）、戦時体制強化の一環として、消防組は防護団と合流し警防団と名称を改め、防空の業務も負うことになりました。

しかし、戦後、新憲法の制定に伴い「消防組織法」が制定され、消防組織を警察から分離し、地方自治体の管理下に置くことになりました。警防団は消防団に名称を改め、消防業務のすべては市町村に移譲され、災害時における消防活動、報告など市町村の責任となりました。

昭和29年（1954）11月、越ヶ谷町をはじめ2町8ヵ村が合併して越谷町が誕生し、消防組織も越谷町に移管され、消防本部ほか旧町村単位による10分団に編成されました。昭和31年（1956）には川柳分団が加わり11分団に再編成されました。消防備品は、自動車ポンプ3台、三輪車ポンプ7台、その他手動ポンプ等でした。

昭和33年（1958）11月、越谷町は市制を施行して越谷市になり、翌34年（1959）10月、大沢に常備の消防本部・消防署を開設しました。13人の専任消防職員が配置され、消防組織法に基づく近代的な消防組織のあゆみを始めました。

越谷市消防本部・消防署を開設

越谷市消防本部・消防署は、昭和34年10月1日、大沢1,944番地に開設、職員13人、消防ポンプ自動車1台をもって発足しました。人口48,800人



開署時配置された水槽付消防ポンプ自動車



放水訓練（宮前橋）



木造平屋建ての初代消防庁舎



市長による点検

HISTORY

1959 [昭和34年]

- 9月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数18人となる。
- 10月 消防団条例が改正され、団員定数500人となる。
越谷市消防本部・消防署を開設する。初代消防長は、大塚伴鹿市長が兼務し、職員13人、水槽付消防ポンプ自動車1台をもって発足する。
消防無線基地局、移動局、それぞれ1局を新設する。
大沢分団第1部を準常備部とし、団員11人、四輪ポンプ自動車1台をもって発足し、常備消防力の一翼を担う。

社会の動き・災害等

1959 [昭和34年]

- 4月 皇太子ご成婚
- 9月 伊勢湾台風

消防無線運用と救急業務の開始



運用開始時の初代救急車



消防自動車の車載無線機



消防署内に設置された消防無線基地局



小学校のプールを使用した放水訓練

HISTORY

1960 [昭和35年]

- 4月 初代消防署長に大貫亥蔵氏が任命される。越ヶ谷分団に消防無線移動局が増設される。
- 10月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数22人となる。
- 11月 消防団長に降田清一郎氏が任命される。

1961 [昭和36年]

- 6月 準常備部を解散し、四輪ポンプ自動車消防署に移管される。

1962 [昭和37年]

- 3月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数26人となる。
- 4月 救急業務に関する規則の制定により、救急業務を開始する。

社会の動き・災害等

1960 [昭和35年]

- 5月 チリ地震津波
- 9月 カラーテレビ放送開始

1961 [昭和36年]

- 5月 三陸大火、八戸市大火
- 9月 第2室戸台風

1962 [昭和37年]

- 4月 宮城県北部地震
- 6月 十勝岳爆発
- 9月 長崎県福江市大火

望楼監視の時代



消防特別点検（消防団員）



望楼監視勤務



望楼から北方向（現在の県道足立越谷線）



望楼から西方向（現在の北越谷地区）

HISTORY

1963 [昭和38年]

12月 越谷市消防賞じゅつ金制度が制定施行される。

1964 [昭和39年]

5月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数32人となる。

社会の動き・災害等

1963 [昭和38年]

1月 38年豪雪
11月 鶴見電車事故

1964 [昭和39年]

6月 新潟地震
7月 東京都勝島倉庫火災
10月 東海道新幹線開通
東京オリンピック開催

念願の消防本庁舎を新築 鉄筋コンクリート3階建（望楼付庁舎）



2階からの出動は、すべり棒で降下した



119番通報を受信中の通信員

HISTORY

1965 [昭和40年]

- 3月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数40人となる。
- 11月 増林分団の三輪ポンプ自動車老朽化により、四輪ポンプ自動車に更新する。

1967 [昭和42年]

- 8月 消防本庁舎新築、鉄筋コンクリート3階建てとなる。
- 11月 消防署に四輪ポンプ自動車を配置する。
- 12月 消防長に大貫亥蔵氏が任命される。



手回しサイレン付消防ポンプ自動車

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」 ①



職員が車両を整備点検することが主流であった

COLUMN ● 全国火災予防運動

火災予防に関する意識を高めることにより、火災の発生を防止し、尊い生命と貴重な財産の損失を防ぐことを目的とする運動。毎年3月1日から3月7日は「春の火災予防運動」、11月9日から11月15日は「秋の火災予防運動」として実施しています。

社会の動き・災害等

1965 [昭和40年]

- 1月 東京都大島町大火
- 10月 西宮市LPGタンクローリー火災

1966 [昭和41年]

- 1月 川崎市雑居ビル火災
- 2月 全日空機東京湾墜落事故
- 3月 カナダ航空機羽田空港炎上
- 3月 英国海外航空機富士山腹遭難事故
- 11月 水上温泉菊富士ホテル火災
- 11月 全日空機松山沖墜落事故

昭和41年度標語

「火の始末 人にたのむな 任せるな」



本庁舎西側の風景 (昭和41年)



本庁舎西側の風景 (平成21年)

昭和42年度標語

「さあねよう アッそのまえに 火の点けん」

社会の動き・災害等

1967 [昭和42年]

- 3月 鈴鹿トンネル内車両火災
- 8月 新宿駅油槽列車火災



本庁舎南側の風景 (昭和42年)



本庁舎南側の風景 (平成21年)

県下初の女性消防士誕生



県下で初めて採用された女性消防士



初のダブルキャブ型消防ポンプ自動車を購入



消防訓練（越谷市役所）

HISTORY

1968 [昭和43年]

- 3月 荻島分団の三輪ポンプ自動車を老朽化により、四輪ポンプ自動車に更新する。
- 4月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数43人となる。消防署に消防広報、連絡、災害現場指揮等に使用するため、指令車を配置する。
- 11月 消防長職務代理者に消防署長永野悦郎氏が任命される。
- 12月 救急車を購入し、2台となる。消防団装備は、四輪ポンプ自動車6台、三輪ポンプ自動車2台、可搬ポンプ42台となる。

1969 [昭和44年]

- 1月 越谷市機構改革に伴い、消防本部に2課（管理、予防）3係（管理、予防、警防）を新設する。
- 3月 大袋分団の三輪ポンプ自動車が老朽化により、四輪ポンプ自動車に更新する。
- 4月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数70人、その他職員5人の計75人となる。県下初の女性消防士5人を採用する。

1970 [昭和45年]

- 2月 日本消防協会から優良消防団として表彰される。
- 7月 消防需要の増加により、分署及び職員待機宿舎建設に着手する。
- 9月 小型動力ポンプ5台、荻島、出羽、蒲生、増林、大沢の各分団に配置する。
- 10月 消防団長に中野喜平治氏が任命される。

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」②

昭和43年度標語

「あなたは 火事の恐ろしさを しらない」



消防署に配備された指令車

社会の動き・災害等

1968 [昭和43年]

- 2月 えびの地震
- 4月 小笠原諸島返還・日米協定調印
(6月26日東京都に編入)
霞ヶ関ビル完成
- 5月 1968年十勝沖地震
- 8月 飛騨川バス転落事故
- 11月 有馬温泉池之坊満月城火災
- 12月 3億円強奪事件

昭和44年度標語

「今捨てた タバコの温度が 700度」



越ヶ谷分団消防ポンプ自動車

社会の動き・災害等

1969 [昭和44年]

- 2月 磐梯熱海温泉磐光ホテル火災
- 5月 東名高速道路全面開通
加賀市大火
- 7月 アポロ11号月面着陸

昭和45年度標語

「あぶない！ 消し忘れ 切り忘れ」



火災現場

社会の動き・災害等

1970 [昭和45年]

- 3月 日本万国博覧会開催
- 4月 大阪市地下鉄工事現場ガス爆発火災
- 6月 両毛病院火災
- 8月 東京・銀座等で歩行者天国始まる

谷中分署、蒲生分署の開署 消防需要増加に対応



国道4号線沿いに完成した谷中分署（テレビ監視タワー付庁舎）



望楼監視からテレビカメラによる監視に切り替わる



2段ベットを使用していた仮眠室（谷中分署）



消防訓練（病院）



県道足立越谷線沿いに完成した蒲生分署

HISTORY

1971 [昭和46年]

- 1月 大相模分団の三輪ポンプ自動車
が老朽化により、四輪ポンプ自
動車に更新する。
- 2月 谷中分署を開署する。配置人員
24人。テレビカメラによる監視
を行う。
谷中分署に屈折はしご付消防ポ
ンプ自動車(15m級)を配置する。
消防署に化学消防ポンプ自動車
を配置する。
- 4月 越谷市定数条例改正により、消
防職員定数85人となる。
消防長に永野悦郎氏が任命される。

- 5月 消防署に査察指令車を配置す
る。
- 11月 桜井分団、川柳分団に四輪ポン
プ自動車を配置する。

1972 [昭和47年]

- 1月 新方分団に四輪ポンプ自動車を
配置する。
- 3月 越谷市長島村平市郎氏が消防長
事務取扱者となる。
- 4月 越谷市定数条例改正により、消
防職員定数115人となる。

1973 [昭和48年]

- 3月 蒲生分署を開署する。配置人員
23人。テレビカメラによる監視
を行う。
- 4月 越谷市定数条例改正により、消
防職員定数139人となる。
消防本部の機構改革により、管
理課2係、予防課4係となる。
- 6月 消防署に広報車を配置する。蒲
生分署に隊員輸送車を配置する。
- 7月 谷中分署に機材輸送車を配置す
る。
- 9月 蒲生分署に消防ポンプ自動車を
配置する。

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」 ③

昭和46年度標語

「いま燃えようとしている 火がある」



庁舎前の大交代（消防署）

社会の動き・災害等

- 1971 [昭和46年]
6月 沖縄返還協定調印
7月 環境庁発足
 霰石事故
8月 ドルショック、通貨危機

昭和47年度標語

「慣れた火に 新たな注意」

社会の動き・災害等

- 1972 [昭和47年]
2月 札幌冬季オリンピック開催
3月 山陽新幹線新大阪－岡山間開通
5月 大阪・千日デパートビル火災
 沖縄の施政権返還、沖縄県誕生
9月 日中国交正常化
 パンダブーム



消防訓練（スーパーマーケット）

昭和48年度標語

「隣にも 声をかけあって よい防火」

社会の動き・災害等

- 1973 [昭和48年]
2月 円の変動相場制移行
3月 福岡県済生会八幡病院火災
7月 出光石油化学徳山工場火災
10月 第1次石油危機
11月 熊本市大洋デパート火災



昭和40年代の防火装備

中高層火災に対応 近隣消防との連携（4市1組合）



消防訓練（スーパーマーケット）



4市1組合（越谷市、草加市、八潮市、三郷市、吉川松伏消防組合）合同消防訓練（越谷市役所）



水難事故に備えて救命ボート訓練



はしご車からの放水訓練（越谷駅前）

HISTORY

1974 [昭和49年]

- 1月 消防長に島村利一氏が任命される。
- 2月 指令室を新設、B級指令台により業務を開始する。救急系無線局（復信式）を新設する。無線局の改修により消防系無線基地局の更新及び移動局2局を増強する。

1975 [昭和50年]

- 4月 消防長に菅家義雄氏が任命される。

1976 [昭和51年]

- 4月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数174人となる。

昭和49年度標語

「生活の一部にしよう 火の点検」



交代時の車両点検（蒲生分署）

社会の動き・災害等

1974 [昭和49年]

- 5月 1974年伊豆半島沖地震
- 8月 丸の内三菱重工ビル爆破テロ事件
- 9月 多摩川堤防決壊
- 12月 三菱石油水島製油所重油流出事故

昭和50年度標語

「幸せを 明日につなぐ 火の始末」



水難救助訓練（葛西用水）

社会の動き・災害等

1975 [昭和50年]

- 2月 大協石油四日市精油所タンク火災
- 3月 新幹線、博多駅まで延長開業
- 7月 沖縄海洋博覧会開催

昭和51年度標語

「火災は人災 防ぐは あなた！」



市長から点検を受ける消防団員

社会の動き・災害等

1976 [昭和51年]

- 3月 北海道庁爆弾テロ事件
- 10月 酒田市大火

間久里分署 (訓練塔付) の開署



国道4号線沿いに完成した間久里分署



間久里分署で行なわれた東部地区救助技術指導会

HISTORY

1977 [昭和52年]

- 3月 訓練塔付間久里分署を開署する。配置人員25人。テレビカメラによる監視を行う。
携帯用無線機3台増強し、携帯無線機12台となる。
- 5月 消防署望楼監視を廃止し、テレビカメラを新設する。
- 12月 間久里分署に消防ポンプ自動車1台、救急車1台を配置する。

1978 [昭和53年]

- 2月 消防団長に森山武氏が任命される。
- 4月 消防署に指令車1台を配置する。
- 11月 消防署に消防ポンプ自動車1台を配置する。

1979 [昭和54年]

- 4月 消防本部の機構改革により、管理課を総務課とし、消防機構の充実を図る。
- 5月 指令室に気象観測用風向風速計を設置する。
- 6月 テレホンサービスシステム（5回線）を導入し、消防情報の提供を開始する。
- 11月 消防本庁舎2階、3階の一部を増築（9月着工、11月完了）する。
- 12月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数190人となる。



改修前の消防本庁舎



改修後の消防本庁舎



昭和52年度標語

「使う火を 消すまで離すな 目と心」

社会の動き・災害等

1977 [昭和52年]

- 2月 札幌白石中央病院火災
- 3月 栃木県那須林野火災
北九州市貫山山林火災
- 5月 岩国病院火災

テレビカメラ監視業務を開始した消防署

昭和53年度標語

「それぞれの 持場で生かせ 火の用心」



社会の動き・災害等

1978 [昭和53年]

- 1月 1978年伊豆大島近海地震
- 3月 新潟市雑居ビル火災
- 5月 成田空港（新東京国際空港）開業
- 6月 1978年宮城県沖地震
- 10月 有珠山噴火
- 12月 第2次石油危機

ベッドが2台になる2B型救急車



昭和54年度標語

「これくらい と思う油断を 火が狙う」

社会の動き・災害等

1979 [昭和54年]

- 1月 国立共通1次試験開始
- 3月 スリーマイル島原発事故
上越新幹線大清水トンネル工事火災
- 6月 東京サミット開催
- 7月 東名高速日本坂トンネル内車両火災

市指定文化財を守る文化財防火デー訓練

建物の高層化に対応 35m級はしご車を配備



越谷市防災訓練（東越谷小学校 昭和57年9月11日）



はしご車を活用した消防訓練



文化財防火デー訓練（大泊 安国寺 昭和55年1月26日）



台風24号による被害（弥栄町地内 昭和56年10月23日）

HISTORY

1980 [昭和55年]

- 1月 消防本部に可搬型救急無線局（10W）1台を新設し、業務を開始する。
消防無線基地局（5W）県波を新設し業務を開始する。
- 3月 消防庁長官から消防本部・消防団が竿頭綬を授与される。
- 12月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数207人となる。

1981 [昭和56年]

- 2月 間久里分署に35m級はしご付消防ポンプ自動車1台を配置する。
- 4月 埼玉県救急医療情報システムの運営が開始される。
日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車が寄贈され、消防署に配置する。
- 12月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数229人となる。

1982 [昭和57年]

- 10月 市内事業所から救急車・査察車各1台が寄贈され、消防署に配置する。
- 12月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数252人となる。



寄贈された水槽付消防ポンプ自動車

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」 ⑥

昭和55年度標語

「あなたです！ 火事を出すのも 防ぐのも」



更新した
消防ポンプ自動車

社会の動き・災害等

1980 [昭和55年]

- 1月 東洋ガラス倉庫火災
- 7月 モスクワオリンピック開催
- 8月 静岡駅前ゴールデン街ガス爆発事故
新宿駅前バス放火事件
- 11月 川治プリンスホテル雅苑火災



柏原芳恵さん

昭和56年度標語

「毎日が 防火デーです ぼくの家」



新しくなった越谷駅

社会の動き・災害等

1981 [昭和56年]

- 3月 神戸ポートアイランド博覧会開催
- 5月 根室市花咲港船舶火災
- 10月 北炭夕張新炭鉱ガス突出事故



松田聖子さん

昭和57年度標語

「火の用心 心で用心 目で用心」



消防団特別点検に伴う
ポンプ車操法訓練

社会の動き・災害等

1982 [昭和57年]

- 2月 ホテルニュージャパン火災
羽田沖日航機墜落事故
- 6月 東北新幹線開業
- 9月 リニアモーターカー
有人走行実験成功
- 11月 上越新幹線開業



松本伊代さん

大相模分署の開署 勤務体制を2部制から3部制へ移行



県道越谷流山線沿いに完成した大相模分署



消防本部通信指令室 指令放送は、職員の肉声で指令していた



救急の日フェスティバル（スーパーマーケット 昭和60年9月5日）

HISTORY

1983 [昭和58年]

- 3月 消防署に救急車1台を配置する。
- 4月 消防署、谷中分署の勤務体制を3部制に改める。
- 7月 消防署に隊員輸送車1台を配置する。
- 12月 大相模分署を開署する。配置人員37人。
当直司令制度を導入し、消防署に担当司令を置き、
消防機構の充実を図る。

1984 [昭和59年]

- 6月 大相模分署に資機材搬送車1台を配置する。
- 10月 蒲生分署、間久里分署、大相模分署の勤務体制を3部制に改める。
財団法人埼玉県消防協会から特別優良消防団として表彰旗が授与される。
- 12月 大相模分署に水槽付消防ポンプ自動車1台を配置する。

1985 [昭和60年]

- 7月 谷中分署、蒲生分署のテレビカメラ監視業務を廃止する。
- 12月 間久里分署のテレビカメラ監視業務を廃止する。

昭和58年度標語

「点検は 防火のはじまり しめくり」



消防訓練で応急手当を指導する職員

社会の動き・災害等

1983 [昭和58年]

- 2月 蔵王観光ホテル火災
- 4月 東京ディズニーランド開園
- 5月 昭和58年日本海中部地震
- 7月 山陰豪雨
- 9月 大韓航空機墜落事件
- 10月 三宅島雄三噴火
- 11月 静岡県つま恋プロパンガス爆発事故



石川秀美さん

昭和59年度標語

「“あとで”より“いま”が大切 火の始末」



救急相談コーナーの開設 (越谷市役所)

社会の動き・災害等

1984 [昭和59年]

- 3月 グリコ森永事件
- 5月 NHK衛星放送開始
- 9月 長野県西部地震
- 11月 世田谷・地下通信ケーブル洞道火災



早見 優さん

昭和60年度標語

怖いのは 「消したつもり」と「消えたはず」



救助隊による水難救助訓練 (葛西用水)

社会の動き・災害等

1985 [昭和60年]

- 3月 科学万博つくば'85開催
- 4月 日本電電公社、日本専売公社の民営化
- 5月 目黒区柿の木坂タンクローリー火災
- 8月 日航ジャンボ機御巣鷹山に墜落



本田美奈子さん

テレビカメラ監視業務の全署廃止 —地図検索装置の導入—



指令装置Ⅱ型、指揮台、無線統制台、指令伝送装置、地図検索装置等を導入する



大相模分署に配置された屈折はしご付消防ポンプ自動車



119番の日が制定される



消防署に配置された指令広報車

HISTORY

1986 [昭和61年]

- 1月 大相模分署に屈折はしご付消防ポンプ自動車1台を配置する。
- 3月 消防署のテレビカメラ監視業務を廃止する。
- 7月 日本消防協会から指令広報車1台が寄贈され、消防署に配置する。
- 10月 越谷市防火安全協会から軽自動車5台が寄贈され、消防署、谷中分署、蒲生分署、間久里分署、大相模分署に配置する。
- 12月 間久里分署に水槽付消防ポンプ自動車1台を配置する。

1987 [昭和62年]

- 4月 消防長に中野功氏が任命され、消防本部総務課長事務取扱となる。消防団長に白鳥庄造氏が任命される。
- 10月 越谷市消防団条例の一部改正、条例定数450人以内となる。
- 11月 住民の防災意識の高揚を図ることを目的として119番の日が制定される。

1988 [昭和63年]

- 3月 指令装置Ⅱ型、指揮台、無線統制台、指令伝送装置、地図検索装置等を導入する。救急基地用無線局を10Wの新波に切替え、併せて移動局を配備する。日本損害保険協会から救急車1台が寄贈され、谷中分署に配置する。
- 4月 消防団長に鈴木清康氏が任命される。

昭和61年度標語

「防火の大役 あなたが主役」



夏季特別点検に伴う
消防団操法訓練

社会の動き・災害等

1986 [昭和61年]

- 1月 スペースシャトル「チャレンジャー」爆発事故
- 2月 熱川温泉ホテル大東館火災
- 4月 チェルノブイリ原発事故
- 7月 東北自動車道開通
- 11月 伊豆大島三原山噴火



中山美穂さん

昭和62年度標語

「消えたかな！ 気になるあの火 もう一度」



救急の日に伴う
応急手当の指導
(越谷市役所)

社会の動き・災害等

1987 [昭和62年]

- 4月 国鉄分割民営化
- 5月 大井火力発電所タンク爆発火災
- 6月 特別養護老人ホーム「松寿園」火災
- 11月 大韓航空機爆弾テロ事件



山瀬まみさん

昭和63年度標語

「その火 その時 すぐ始末！」



救助服の左上腕に付けた
最初の救助隊員章

社会の動き・災害等

1988 [昭和63年]

- 3月 青函トンネル開通
- 4月 瀬戸大橋開通
- 5月 ソ連船プリアムーリエ号火災



土家里織さん

越谷市消防本部発足30周年記念誌発刊 各種救助事象に対応 救助工作車を配備



間久里分署に配備された初代救助工作車

交通事故・災害時の緊急救助に威力を発揮する。救助工作車が、先月から越谷市消防に9台配備されている。

救助工作車を配備 越谷市消防署間久里分署

工作車は、積載量五・五トンの上げ能力・九トンのクレーン、けん引力五トンのウィンチ、発電、照明装置を装備。重層物排除用のマット型空気ジャッキ、五トンの力で六十センチのすき間をあける油圧スプレッダー、切断用には圧縮空気で鉄材を切るエアークッター、十二トンの力で切断する油圧切断器なども積まれている。

効果を発揮したのは、十月二日の二回目の出動。大沢地区路上で側面衝突された女性ドライバーが脱出できなくなり、油圧スプレッダーでドアをこじあげ、救出した。十四日には駐車中のトラックに追突し、ダッシュボードとブレーキペダルにはさまれた男性ドライバーをウィンチ装置、油圧装置を使い救出している。

現在、同工作車専従の十五人が三班編成で二十四時間、事故、災害に備えている。



台風18号による被害
(弥栄町地内 平成3年9月19日から20日)



六都県市合同防災訓練埼玉会場

(越谷総合公園)

HISTORY

1989 [平成元年]

- 3月 大相模分署に高圧ガス（空気）充填施設を設置する。
- 5月 市内事業所から救急車1台が寄贈され、消防署に配置する。
- 10月 越谷市消防本部発足30周年記念誌を発刊する。

1990 [平成2年]

- 3月 消防庁長官から消防本部・消防団に表彰旗が授与される。
- 9月 六都県市合同防災訓練の埼玉会場として越谷総合公園で開催する。間久里分署に救助工作車Ⅱ型1台を配置する。

1991 [平成3年]

- 4月 谷中分署に消防ポンプ自動車1台を配置する。

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑨

平成元年度標語

「おとなりに あげる安心 火の始末」



子どもたちへの職員による火災予防紙芝居

平成2年度標語

「まず消そう 火への鈍感 無関心」



物品販売店舗への立入検査

平成3年度標語

「毎日が 火の元警報 発令中」



5署合同水難救助訓練（葛西用水）

社会の動き・災害等

1989 [平成元年]

- 1月 昭和天皇崩御、皇太子明仁親王即位「平成」と改元
- 4月 消費税スタート（税率3%）
- 11月 ベルリンの壁崩壊



松本典子さん

社会の動き・災害等

1990 [平成2年]

- 3月 スーパー長崎屋尼崎店火災
- 5月 第一化成工場火災（東京都板橋区）
- 10月 東西ドイツ統一
- 11月 即位の礼挙行



杜けあきさん



日蔭温子さん

社会の動き・災害等

1991 [平成3年]

- 3月 日立市林野火災
- 5月 信楽高原鉄道列車衝突事故
雲仙普賢岳噴火

消防広報・防災教育の普及拡大



商店街で火災予防を呼びかける幼年消防クラブ



幼年消防クラブの結成式



一日消防署長による消防設備の点検

(平成5年11月9日)

HISTORY

1992 [平成4年]

- 2月 間久里分署に訓練塔（簡易型）を設置する。
- 3月 谷中分署に鉄骨造2階建車庫兼倉庫を新築する。
- 4月 消防団長に遊馬重誉氏が任命される。越谷市消防音楽隊を結成する。
- 6月 救急車5台に自動車電話を設置する。

1993 [平成5年]

- 1月 市内事業所から防災指導車1台が寄贈され、消防署に配置する。
- 4月 財団法人救急振興財団救急救命東京研修所に救急救命士養成のため研修生1人を派遣する。
- 8月 自治体消防45周年に際し、越谷コミュニティセンターで記念式典を開催する。東京消防庁消防学校に救急救命士養成のため研修生1人を派遣する。
- 11月 初の救急救命士が誕生する。
- 12月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数255人となる。



消防音楽隊演奏会（越谷市役所）

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑩

平成4年度標語

「点検を 重ねて築く “火災ゼロ”」



越谷市総合防災訓練 消火訓練

社会の動き・災害等

1992 [平成4年]

6月 国連環境開発会議

(リオ・デ・ジャネイロ地球サミット)

茨城県守谷町煙火工場爆発火災

7月 山形新幹線開業

10月 富士石油(株)袖ヶ浦製油所プラント爆発火災



南野陽子さん

平成5年度標語

「防火の輪 つなげて広げて なくす火事」



旧消防署庁舎東側にあった消防本部庁舎

社会の動き・災害等

1993 [平成5年]

4月 天皇、沖縄ご訪問

6月 皇太子徳仁親王殿下ご成婚

7月 北海道南西沖地震



奥山佳恵さん

COLUMN ● 越谷市消防音楽隊

越谷市消防音楽隊は、音楽を通じて市民の防火、防災思想の普及を目的として、平成4年4月1日に結成しました。消防本部の諸式典や行事はもとより越谷市の行事などに登場し、火災予防や消防情報を広報しています。

救急救命士と高規格救急車の運用開始



救急救命士と高規格救急車の運用を開始する（平成6年）

越谷市総合防災訓練 高所救出訓練
(北越谷小学校 平成7年8月27日)

HISTORY

1994 [平成6年]

- 1月 救命講習会を開始する。
- 4月 週休2日制が施行される。
- 7月 高規格救急車の運用を開始する。
- 10月 マニラ市消防職員2人が化学車操作研修のため来署する。
- 12月 越谷市定数条例改正により、消防職員定数265人となる。

1995 [平成7年]

- 4月 マニラ市に旧化学車を寄贈する。
- 6月 完全密閉型化学防護服を配備する。
- 10月 緊急消防援助隊の発足により、救急部隊1隊及び消火部隊1隊を総務省消防庁に登録する。

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」 ⑪

平成6年度標語

「安心の 暮らしの中心 火の用心」



ヘリコプター離発着及び備蓄倉庫を備えた埼玉県越谷防災基地（越谷市北後谷4）

社会の動き・災害等

- 1994 [平成6年]
- 1月 ロサンゼルス・ノースリッジ地震
 - 4月 名古屋空港中華航空機墜落炎上事故
 - 6月 松本サリン事件
 - 9月 関西国際空港開港
 - 12月 若喜旅館本館火災（福島県・飯坂温泉）



葉月里緒菜さん



舞の海さん

平成7年度標語

「災害に 備えて日頃の 火の用心」



一日消防署長による火災予防呼びかけ

社会の動き・災害等

- 1995 [平成7年]
- 1月 兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）
 - 3月 地下鉄サリン事件
 - 11月 埼玉県吉見町 東洋製罐(株)埼玉工場倉庫火災 死者3人（うち消防職員2人殉職）、負傷6人（消防職員）



鶴田真由さん



地下鉄サリン事件を契機に完全密閉型化学防護服を配備する（平成7年6月21日）

COLUMN ● 一日消防署長

火災予防運動期間中に広報活動にご協力いただける方を公募し、一日消防署長として駅頭などで火災予防を呼びかけていただきます。

大袋分署開署、北西部地域の消防力を強化



越谷市総合防災訓練（北陽中学校 平成8年8月31日）



仮設庁舎で開署した大袋分署（平成8年4月1日）

HISTORY

1996 [平成8年]

4月 阪神・淡路大震災を契機に消防団の機動力を確保するため各分団の合併を計画的に進める。
大袋分署を開署する。配置人員25人。水槽付消防ポンプ車1台、高規格救急車1台、資機材搬送車1台を配置する。

彩の国レスキュー隊（県）の発足により、救急隊1隊、消火隊1隊及び救助隊1隊を登録する。
消防団副団長3人制となる。

5月 市町村共通波1波及び全国共通波2波を増設する。

8月 市内事業所から総務連絡車1台が寄贈され、消防本部に配置する。

9月 群馬県高崎市等広域消防局と消防相互応援協定を締結する。

10月 越谷市防火安全協会から人員輸送、り災者保護用マイクロバス1台が寄贈され、消防本部に配置する。

1997 [平成9年]

4月 消防長に深堀武夫氏が任命される。
消防署に救助工作車Ⅲ型（四輪駆動）1台を配置する。

7月 各分団に小型動力ポンプ搬送車21台を配置する。



大袋分署の配置車両（左から資機材搬送車、高規格救急車、水槽付消防ポンプ車）



南越谷地区防災訓練（南越谷小学校 平成8年3月8日）

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」 ⑫

平成8年度標語

「便利さに 慣れて忘れる 火のこわさ」



救助工作車Ⅲ型の配備により、救助工作車が2台運用となる
(平成9年4月1日)

社会の動き・災害等

1996 [平成8年]

- 2月 豊浜トンネル崩落事故
- 4月～7月 モンゴルで大森林火災
- 6月 福岡空港ガーランドインドネシア航空機事故
- 7月 大腸菌O-157による集団食中毒多発
アトランタオリンピック開催
- 12月 蒲原沢土石流災害、緊急消防援助隊初出動



榎本加奈子さん



高樹沙耶さん

平成9年度標語

「つけた火は ちゃんと消すまで あなたの火」



文化財防火デーに伴う消防訓練

社会の動き・災害等

1997 [平成9年]

- 1月 ロシア船籍タンカー・ナホトカ号重油流失事故
- 4月 消費税率引き上げ(5%)
- 7月 出水市土石流災害
- 10月 長野(北陸)新幹線 東京ー長野間開業



松本恵さん

COLUMN ● 文化財防火デー

毎年1月26日は、「文化財防火デー」です。
文化財を火災・震災その他の災害から守るとともに、日本国民の文化財愛護思想の高揚を図る目的で、昭和30年(1955)に当時の文化財保護委員会(現在の文化庁)と国家消防本部(現在の消防庁)が制定しました。

携帯電話からの119番通報受信を開始



携帯電話からの119番通報受信を開始した指令室



救急フェア会場で演奏する消防音楽隊



防火法被を着て市民に火災予防の広報をするマラソンクラブ員（平成10年11月12日）

HISTORY

1998 [平成10年]

- 2月 埼玉県自治体消防50周年記念式典が埼玉会館で開催される。
- 3月 谷中分署、間久里分署に高規格救急車を配置する。
- 4月 消防団長に清田幸治氏が任命される。
携帯電話からの119番通報受信転送体制を開始する。
- 10月 119番通報（救急）受信時、口頭による応急手当指導を開始する。

1999 [平成11年]

- 3月 大相模分署に高規格救急車（災害対応特殊救急自動車）を配置する。
- 11月 救急救命士資格者8人となる。



救助技術関東地区指導会に出場した隊員
（神奈川県消防学校 平成10年7月24日）

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」 ⑬

平成10年度標語

「気をつけて はじめはすべて 小さな火」



防災訓練での起震車による震度体験

社会の動き・災害等

- 1998 [平成10年]
- 2月 長野オリンピック開催
- 7月 パプアニューギニア津波災害
- 和歌山市カレー毒物混入事件



岡崎朋美さん



田村亮子さん

平成11年度標語

「あぶないよ ひとりぼっちにした その火」



新方川左岸に造られた大吉調節池

社会の動き・災害等

- 1999 [平成11年]
- 8月 トルコ西部地震
- 9月 台湾中部地震
- 茨城県東海村ウラン加工施設臨界事故
- 10月 首都高速タンクローリー爆発事故
- 11月 自衛隊機墜落、東京・埼玉で80万戸停電（狭山市）



内山理名さん



丸山茂樹さん



越谷市役所周辺（平成11年）

COLUMN ● 大吉調節池

新方川の洪水を防ぐために造られた広さ10.3ヘクタール、貯水量40万トンの調節池です。上空から見ると池の形が越谷市の地形で、池の2つの島は、しらこぼとが羽ばたいっている形になっています。

埼玉県防災航空隊との連携を強化



防災ヘリコプターから屋上に降下する航空隊員



防災ヘリコプターから降下した航空隊員が負傷者を担架に収容している状況



新越谷駅前での消防訓練。駅ビル内で負傷した傷病者を屋上緊急救助用スペースから防災ヘリコプターで吊り上げ救出する（平成13年11月7日）



火災現場を上空から撮影しながら無線で状況を報告する（上：南越谷地内 下：大沢地内 埼玉県防災航空隊提供）

HISTORY

2000 [平成12年]

- 4月 消防長に小島日出男氏が任命される。
救急救命士9人となる。
- 11月 大相模分署に屈折はしご付消防ポンプ自動車（15m級）1台を配置する。

2001 [平成13年]

- 3月 消防緊急通信指令装置Ⅱ型を更新し、運用を開始する。
- 8月 キャンベルタウン SES（民間緊急援助隊）使節団が視察のため来署する。
越谷市定数条例の改正により、消防職員定数270人となる。
- 12月 消防本庁舎の建て替え工事に着手する。

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑭

平成12年度標語

「火をつけた あなたの責任 最後まで」



葛西用水からの吊り上げ救出訓練（越谷市水上フェスティバル）

社会の動き・災害等

- 2000 [平成12年]
- 3月 地下鉄日比谷線脱線衝突事故
有珠山噴火
 - 6月 三宅島噴火・新島・神津島近海地震
 - 7月 九州・沖縄サミット
 - 9月 シドニーオリンピック開催
 - 10月 鳥取県西部地震
 - 11月 オーストリア・トンネル火災



末永 遥さん



吹石一恵さん

平成13年度標語

「たしかめて。火を消してから 次のこと」



埼玉県防災ヘリコプターの夜間離着陸訓練 埼玉県越谷防災基地
(越谷市北後谷4)

社会の動き・災害等

- 2001 [平成13年]
- 1月 インド西部地震
 - 3月 芸予地震
 - 5月 青森県弘前市消費者金融事務所
放火火災
 - 7月 明石市花火大会集団死傷事故
 - 9月 新宿区歌舞伎町雑居ビル火災
米国・同時多発テロ事件



柴咲コウさん



浅香友紀さん



建て替え工事前の消防本庁舎（平成13年3月）

COLUMN ● 埼玉県防災基地

埼玉県は、物資の備蓄・集配機能などを備えた「防災基地」を5カ所に整備しています。越谷防災基地のほか、新座市、秩父市、熊谷市、川島町にあります。基地には、傷病者の搬送や緊急物資等の輸送のためのヘリコプターの離着陸場を併せて整備しています。

消防本庁舎が完成 全国消防救助技術大会出場（陸上の部、水上の部）



消防力強化のため消防本庁舎を新築（平成15年3月）



消防訓練（越谷市役所第2庁舎 平成14年8月28日）



全国消防救助技術大会（陸上の部）はしご登はん訓練で初入賞した隊員（第32回仙台市 平成15年8月28日）

HISTORY

2002 [平成14年]

- 4月 消防団長に島村仁氏が任命される。
- 12月 越谷市定数条例の改正により、消防職員定数276人となる。

2003 [平成15年]

- 3月 消防本庁舎が完成する。
- 4月 消防長に杉本昭彦氏が任命される。
消防本部組織改正を行い、総務・予防・警防・指令の4課体制となる。
33年ぶりに女性消防士を採用する。
- 8月 第32回全国消防救助技術大会に出場し、陸上の部（はしご登はん）で初入賞する。
- 11月 起震車を配置する。



全国消防救助技術大会（水上の部）溺者救助訓練で入賞した隊員（第32回仙台市 平成15年8月28日）

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」 ⑮

平成14年度標語

「消す心 置いてください 火のそばに」



埼玉県防災ヘリコプターと連携した救急搬送訓練 埼玉県越谷防災基地（越谷市北後谷4）

平成15年度標語

「その油断 火から炎へ 災いへ」



地上100メートルにある屋上緊急救助用スペースに降下中の埼玉県防災航空隊員



北越谷駅前高層建物救出訓練 埼玉県防災ヘリコプターによる吊り上げ救出

社会の動き・災害等

2002 [平成14年]

- 3月 旭化成レオナ工場火災
- 5月 2002FIFA ワールドカップ日韓同時開催
- 6月 北海道稚内市中央小売市場火災
- 10月 三菱重工工業長崎造船所豪華客船火災



上戸 彩さん



米倉涼子さん

社会の動き・災害等

2003 [平成15年]

- 2月～6月 新型肺炎・SARS、中国、東南アジア、カナダ等で猛威
- 5月 アルジェリア北部地震
宮城県沖地震
- 6月 神戸市伊川谷住宅火災（4人殉職）
- 8月 三重ゴミ固形燃料発電所爆発火災（2人殉職）
- 9月 ブリヂストン栃木工場火災
- 平成15年（2003年）十勝沖地震



菊川 怜さん



め組の大吾 山田孝之さん

COLUMN ● 緊急救助用
(ホバリング) スペース

ヘリコプターが屋上に降りることなく標識（R）の上でホバリング（空中停止）しながら消防隊員がロープ等で降下して、屋上に避難して来た人をホイスト（ワイヤーロープ）で吊り上げて救出する場所を言います。

緊急消防援助隊として災害活動



埼玉県隊として被災地に向かう越谷隊
(長野自動車道 松代PA 平成16年10月24日)



各県から集結した部隊の宿营地
(小千谷市 白山運動公園 平成16年10月25日)



特殊災害対応訓練
(大相模分署 平成16年2月3日)



小千谷市白山運動公園内のグラウンドに集結した各機関のヘリコプター

HISTORY

2004 [平成16年]

- 7月 新潟・福島豪雨災害に緊急消防援助隊埼玉県隊として、消火隊1隊、救急隊1隊、隊員10人が現地に赴き活動する。
- 10月 新潟県中越地震に緊急消防援助隊埼玉県隊として、消火隊1隊、隊員5人が現地に赴き活動する。
新潟県中越地震、M6.8、最大震度7、死者68人。
- 12月 越谷市定数条例の改正により、消防職員定数292人となる。

2005 [平成17年]

- 4月 消防署組織改正を行い、副署長(兼当直司令)3人体制とする。消防署に指揮担当を設ける。
初の女性消防団員9人を任用する。



新潟県中越地震の災害活動に対し埼玉県知事から表彰を受ける
(知事公館 平成16年12月17日)

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑬

平成16年度標語

「火は消した？ いつも心に きいてみて」



第1回埼玉県東部地域救急フェスタ(越谷市立総合体育館 平成16年9月4日)



起震車で地震による揺れの怖さを体験

社会の動き・災害等

2004 [平成16年]

- | | | | |
|----|--------------------|-----|---------------------|
| 3月 | 六本木ヒルズ自動回転ドア事故 | 10月 | 平成16年(2004年)新潟県中越地震 |
| 7月 | 新潟・福島豪雨、福井豪雨 | | |
| 8月 | 関西電力美浜原子力発電所蒸気噴出事故 | 12月 | ドン・キホーテ浦和花月店火災 |
| | アテネオリンピック開催 | | スマトラ島沖巨大地震・インド洋津波 |



長澤まさみさん



小池栄子さん

平成17年度標語

「あなたです 火のあるくらしの 見はり役」



緊急出場！



社会の動き・災害等

2005 [平成17年]

- | | | | |
|----|------------------|-----|-----------------|
| 2月 | 中部国際空港開港 | 10月 | パキスタン北部大地震 |
| 3月 | 福岡県西方沖を震源とする地震 | 12月 | J R 羽越線列車転覆脱線事故 |
| 4月 | J R 福知山線列車転覆脱線事故 | | |
| 6月 | 中央省庁で「クールビズ」導入 | | |
| 8月 | 宮城県沖を震源とする地震 | | |



早坂美緒さん



宇梶剛士さん

大袋分署新庁舎完成・AEDの普及啓発・住宅用火災警報器の設置促進



大袋分署新庁舎が完成、新たに救助工作車Ⅱ型を配置する（平成18年3月）



救命講習会でAEDの取り扱いを指導する

HISTORY

2006 [平成18年]

- 3月 大袋分署新庁舎が完成する。
- 4月 消防長に藤沼實氏が任命される。
消防団長に高橋明氏が任命される。
- 7月 AEDを公共施設に設置する。
- 9月 越谷市防火安全協会から連絡車1台が寄贈され、消防署に配置する。
- 12月 越谷市定数条例の改正により、消防職員定数301人となる。

2007 [平成19年]

- 4月 消防長に大野實氏が任命される。



婦人防火クラブ員と住宅用火災警報器の設置指導

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」⑬

平成18年度標語

「消さないで あなたの心の 注意の火。」



防災行政無線の放送 防災こしがや



平成18年6月1日から一般家庭に設置が義務づけられた住宅用火災警報器



上野真央さん



チョン・ウソンさん

社会の動き・災害等

2006 [平成18年]

- 5月 インドネシア・ジャワ島中部地震
- 7月 北朝鮮、弾道ミサイル7発発射
- 8月 首都圏大停電

平成19年度標語

「火は見てる あなたが離れる その時を」



消防・防災航空隊・医療機関の連携による救急搬送訓練 (河川防災ステーション)



埼玉県防災ヘリコプターに負傷者を収容し医療機関へ搬送する

社会の動き・災害等

2007 [平成19年]

- 1月 兵庫県宝塚市カラオケボックス火災
- 3月 能登半島地震
- 7月 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震
- 8月 熊谷市・多治見市(岐阜県)で40.9度の国内最高気温
- 10月 米国カリフォルニア州で森林火災、約100万人が避難



片岡安祐美さん



関根麻里さん

越谷レイクタウンまちびらき 市民に愛される消防を目指して



まちびらきした越谷レイクタウン（平成20年3月）



越谷市民まつりでのミニ防火衣撮影コーナー
(平成20年10月19日)



越谷レイクタウン複合商業施設での消防訓練（平成20年9月21日）



音楽を通して火災予防を呼びかける消防音楽隊の定期演奏会（越谷コミュニティセンター大ホール
平成20年3月2日）

HISTORY

2008 [平成20年]

- 3月 越谷市消防音楽隊の第10回定期演奏会を越谷コミュニティセンター大ホールで開催する。
- 4月 消防団長に深野弘氏が任命される。
- 9月 越谷レイクタウンまちびらきに伴い（日本最大級ショッピングモール）消防訓練を実施する。
- 10月 消防署に救急隊1隊を増隊し、7隊となる。

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」 ⑱

平成20年度標語

「火のしまつ 君がしなくて 誰がする」



B C (生物剤、化学剤) 災害対応訓練 (越谷駅 平成20年2月29日)



消防親子デー(大袋中学校 平成20年7月21日)

社会の動き・災害等

2008 [平成20年]

- 2月 韓国・ソウル市 崇礼門(南大門)火災
- 3月 自治体消防制度60周年記念式典開催
- 6月 平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震



越谷レイクタウン土地利用計画図



伊藤英明さん/内野聖陽さん



小倉優子さん



北乃きいさん

COLUMN ● 越谷レイクタウン

越谷レイクタウンは越谷市の東南部に位置し、市の中心核である越谷駅周辺・南越谷駅周辺を補完する副次核の一つです。越谷レイクタウン事業は、河川事業(調節池)と土地区画整理事業による新市街地整備を一体的に進めるもので、全国初のモデル的なまちづくりとして、

「親水文化」を創造し、21世紀にふさわしい「新しく水との共存文化を創造する都市」の形成を目指すものです。

平成20年3月のまちびらき時点では、北口駅前交通広場を含む都市計画道路、駅前の見田方遺跡公園が完成し、越谷レイクタウンを特徴付ける大規模な調節池も概ね完成し、10月には複合商業施設がオープンしました。

越谷市消防本部発足50周年 今、また新しい越谷消防の幕開け



平成22年開署予定の蒲生分署（イメージ図）



水難救助訓練（平成21年5月27日）



越谷駅東口再開発事業に着手（イメージ図）



明日の消防士を目指して（埼玉県消防学校初任科実科査閲）

HISTORY

2009 [平成21年]

- 6月 蒲生分署の建て替え工事に着手する。
- 9月 越谷市消防開設50周年記念事業で「消防キッズフェア」を開催する。

TOPICS ● 「火災予防運動」 全国統一防火標語の変遷でたどる「あの頃」 ⑬

平成21年度標語

「消えるまで ゆっくり火の元 にらめっ子」

社会の動き・災害等

2009 [平成21年]

- 6月 食品工場火災（神戸市）消防職員1人殉職
- 7月 パチンコ店放火火災（大阪市）



消防自動車のペーパークラフト展示



高山侑子さん



福原 愛さん



「消防キッズフェア」 消防寸劇に見入る子どもたち（平成21年9月19日）



AEDの取り扱い方法を説明（第35回越谷市民まつり 平成21年9月27日）



テロ対策実動訓練（越谷レイクタウン 平成21年10月16日）



テロ対策実動訓練 化学防護服を着装し負傷者を救出する訓練



福田沙紀さん



南 明奈さん

第1章 越谷市消防本部50年のあゆみ

越谷市消防開設50周年記念

『消防キッズフェア』開催

昭和34年10月1日に開設した越谷市消防本部・消防署は、本年50周年の節目の年を迎えました。開設50周年を記念して『消防キッズフェア』を平成21年9月19日、消防庁舎、市立第1体育館を会場に開催しました。



音楽にあわせて手遊び



開会宣言（消防長）



消防音楽隊の演奏



子どもレスキュー体験



はしご車の塔乗体験



救助隊員による消防寸劇



消防団員によるパネルシアター